



訃報

塩見幸治さん 66歳=元尼崎市議 /兵庫

毎日新聞 2017年12月23日 地方版



尼崎市担当者との石綿対策に関する意見交換に参加した塩見幸治さん=兵庫県尼崎市役所で2017年7月20日、山本愛撮影

中皮腫闘病、石綿被害救済に尽力

自らの中皮腫の闘病の傍ら、石綿被害者に対する救済を訴えて活動してきた元尼崎市議、塩見幸治（こうじ）さんが21日、66歳で亡くなった。死因は悪性胸膜中皮腫。通夜は23日午後6時、葬儀は24日午後1時半、同市西長洲町2の2の46のクレリ尼崎ホール。喪主は長男一馬（かずま）さん。

塩見さんは2015年1月、右肺胸膜中皮腫の診断を受けた。市職員を経て市議7期を務めたが、石綿と関わる仕事はしたことがなく、

「環境曝露（ばくろ）」によるものと考えられた。幼少期、自宅近くに「石綿スレート」を扱う工場があったが、1970年代に移転。曝露の因果関係は特定できないままだったが、「自分のような患者を出したくない」と、建物解体時の飛散防止対策や患者に対する平等な救済策実施を求めてきた。

悼む声多く

関係者からは、その死を悼む声が寄せられた。「自分のつらい苦しい思いだけではなく、患者みんなの代弁者として使命感を持って意見を述べてくれる人だった」と話すのは、「中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会」前会長の古川和子さん（69）。昨年4月、委員だった環境省石綿健康被害救済小委員会で、塩見さんが患者代表として意見を述べた様子を見ていた。

塩見さんがいつも訴えたのは「曝露のしかたによって患者の救済方法が違うのはおかしい」という点。「塩見さんは、完全なる環境曝露の被害者。『石綿問題は国全体で取り組むべきだ』と訴えてきた塩見さんの思いを無駄にしたくない」と話した。

お互い市議として親交のあった尼崎労働者安全衛生センターの飯田浩事務局長（71）は今夏、尼崎市との石綿対策に関する意見交換会に、塩見さんと共に参加した。「『自分を最後の患者にしてほしい』とよく言っていた。国や行政を動かすために最後まで頑張ってくれた。惜しい人が亡くなり、悔しい」と残念がった。

塩見さんの次男で、尼崎労働者安全衛生センターで活動する有生（ゆうき）さん（36）は「父は、子供が小さかったり、生活苦に陥ったりしている患者のことも心配していた。被害に遭う人が増えないよう、生き証人として活動していたのだと思う」と振り返った。「アスベストを含んだままの建物の解体もある。社会や行政が問題と向き合い、対策を取ってほしい」と話した。【山本愛、田辺佑介】

〔阪神版〕

毎日新聞のニュースサイトに掲載の記事・写真・図表など無断転載を禁止します。著作権は毎日新聞社またはその情報提供者に属します。

Copyright THE MAINICHI NEWSPAPERS. All rights reserved.